

## 平成30年度 第2回五島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年11月22日(木) 午前10時00分～11時13分
- 2 場 所 五島市役所3階第2委員会室
- 3 出席者  
【構成員】 野口市長、藤田教育長、坂本教育委員、佐藤教育委員、杉川教育委員、濱村教育委員  
【事務局】 政策企画課長、教育委員会総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、教育委員会総務課総務係長

4 傍聴者 なし

5 内 容

(1) 開会

【事務局】

みなさま、おはようございます。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。只今より、平成30年度第2回五島市総合教育会議を開会させていただきます。

今年度の第1回会議は、7月21日に開催しておりますが、10月20日より濱村委員が就任しておりますので、メンバーが変わっての最初の総合教育会議ということになります。

この総合教育会議は、市長と教育委員会の協議、調整の場として、法律により設けられておりますので、有意義な会議になればと思っております。

さて、本日の会議は、次第に沿って進めさせていただきますが、3の事務局説明までは、事務局の方で進行したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(2) 市長挨拶

【野口市長】

みなさん、おはようございます。本日は平成30年度の第2回総合教育会議でございます。お忙しいなかをお集まりいただきましてありがとうございます。また、濱村委員には今回が初めての参加ということでよろしくお願いいたします。

この時期に総合教育会議を開催しますのは、来年度の当初予算に本会の意見を反映させるところはできるだけ反映していきたいという思いがありまして、この時期に開催しております。ですから今回、空調機の設置、離島留学・しま留学、プロジェクトG、新図書館等ございますので皆

様から積極的なご意見を頂戴したいと思います。

また、これ以外にもお気づきの点がございましたらご意見をいただければと思っております。どうぞ屈託のないご意見をよろしくお願いいたします。

### ( 3 ) 事務局説明

#### 【事務局】

事務局より、本日の会議の進め方等について説明。

### ( 4 ) 事業報告

#### 【野口市長】

それではただいま事務局より進め方等について説明がありましたが、そのような形で進めさせていたいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それではまず「小中学校への空調機設置について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

#### 【事務局】

資料に沿って、「小中学校への空調機設置について」説明。

#### 【野口市長】

ただいま説明がありましたように、これまでの総合教育会議でも話をさせていただきましたが、市議会の方からも国が方針を変えたということもあって整備を強く求める意見があります。

また、県内自治体も13市が整備を進めるなかで五島市も特別教室も含めたところで167教室を整備する計画で、今度の12月議会に予算を提案させていただきたいと思っております。

それから実は、五島市の場合は国の補助金を使っておりません。国は1教室あたり150万円を上限に3分の1の50万円を補助するという内容であります。その条件が全部工事請負費で事業をしなければならないことになっております。五島市の場合は、小中学校が広範囲に点在しておりますので、できるだけ地元の電機屋さんを使って整備をしたいという思いがありますが、この方法をとると補助事業には乗らないところがあります。

幸い五島市は、合併特例債が使えますので、これを使いますと国の補助金よりも有利になるということです。要は1教室150万では整備ができませんが、合併特例債では全部対象になりますから、国の補助金は使わない方向で進めていきたいと考えております。

私たちが小さいころはそういったものがなくて、ついこの間までは私自身としては、社会に出た時にみんながみんな冷暖房のある仕事につくわけではないので、体を鍛えるという意味では無くてもいいのではないかという思いもあったのですが、マスコミを含めかなり厳しい意見もある

なかで踏み切らざるを得ないという状況であります。

それでは空調機の設置について、委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

#### 【坂本委員】

私も市長が言ったように、踏み切る理由の一つに地球規模での気候変動、温暖化の影響があるなど感じております。特に私は理科の教師をしていたのですが、台風が北上して行き、また戻って来るような現象を見た時に、今まで私が理科の指導をして子ども達と学習したことを否定されたような気がしております。それと台風の発生する回数と規模、非常に温暖化の影響があるなど強く感じております。また、南方系にいる海洋生物のヒョウモンダコやアンボイナ貝というイモ貝の一種だと思いますが、このアンボイナ貝は毒がコブラの37倍くらいあり、九州でも見つかったと聞いております。そういったことを考えれば、温暖化がどんどん進んでいるなかで子どもに我慢しなさいとは言えないと思います。

また、私自身最近、春と秋が無くなってきたと感じております。夏服からすぐに冬服に着替えるというような、秋の期間長袖を着るのは何日間だろうかと思っております。そういうことから空調設備は学校に必要だと感じております。

#### 【杉川委員】

私自身も、以前は家のエアコンを使うことはあまり無かったのですが、近年よく使うようになってきています。それくらい耐え切れない暑さ寒さになってきていると思います。

質問ですが、使用する時間や温度、あるいは期間などを設定しているのかお尋ねします。

#### 【事務局】

学校保健安全衛生基準法で決められているとおり、17度以上28度以下の範囲を超えた場合には使用するというのを指導していきたいと考えております。

使用の仕方については、九電からアドバイスをいただいております。教室に2基設置をした場合、同時に2基を点けるのではなく、先ず1基を先に点けて、1時間くらい経ってからもう1基を点けることで、かなり電気の消費量が抑えられるということですので、そういった指導も併せて学校にお願いしたいと考えております。

#### 【佐藤委員】

私も親として、熱中症が心配だったので安心できますし、快適な環境で学習して学力も上がればさらにいいなと思っています。扇風機も取り付けていますし、それも上手に活用してあまり冷えすぎないようにしてもらいたいと思います。

あと、もし冬に暖房として使うのであれば加湿も考えていかないといけないと思います。

#### 【濱村委員】

すごい時代になってきたなと感じております。

温度もですが、地球の環境や、空気の悪さというのもあって、そのうち外で体育をしないようになるのではないかとということも考えています。

今、国が生きる子どもの力と言われていますが、これは私個人の意見ですが、それで本当に子どもの生きる力が養われるのか、一方では災害があり暖房や冷房がない環境にさらされた場合に、その時にどうやって子ども達は経験をせずに生きるということを考えるのだろうかと思えますので、そういった学習も併せてしていかないと、本当の意味での生きていく力というのは失われていくのではないかという気がしております。

**【野口市長】**

この間の広報のコラムで書かせていただいたのですが、冷房を入れて涼しくなった良かったというのではなくて、何で冷房を入れなくてはならないようになったのか。地球温暖化のために自分たちがそれぞれの私生活において、どういったことに気をつけなければならないのかというような環境学習のようなものも機会を見つけて子ども達に教えてあげる必要があるのではないかと考えております。

東京都は小中学校の体育館に冷房を入れることを応援するといった新聞の記事を見ました、次はそういったことになって来るのかなと考えております。

**【教育長】**

先ほど環境衛生基準のことがでておりましたが、その範囲内での温度を心がけることをしっかり学校の方に周知していきたいと思えます。また、委員さんからもおりましたが、環境教育で特に運動場での体育とか体育館での体育とかいろんな問題がでてくるのではないかとと思えますが、子ども達の日常の健康対策も含めて今まで行き届いていなかった細かな部分まで配慮しながら指導に当たっていかねばならないと考えております。

**【野口市長】**

今年の予算には上げますが、できるだけ来年の夏に間に合わせるように頑張ろうと思っております。ただし、全国の小中学校が冷暖房の整備にかかりますので、もしかすると冷暖房機そのものが手に入りにくくなることも想定されます。時期がずれてくることもあるかもしれませんが、その節はご理解の程よろしくお願いいいたします。

それでは次にその他として、「離島留学・しま留学の現状について」事務局より説明をお願いします。

**【事務局】**

資料に沿って「離島留学・しま留学の現状について」を説明。

**【野口市長】**

ただ今説明がりましたが、坂本委員から補足することはありませんか。

**【坂本委員】**

久賀から1名欠員を出したのですが、その後、年度途中でどうしても入りたいという希望があ

り、12月1日から東京の生徒を受け入れる予定です。

それから、来年度からの受入の傾向ですが、小学2年生から小学6年生までが7組見学に来ています。男の子が6名、女の子が3名、そのうち2組が兄弟で来たいと言っています。それから、中学1年生から2年生までが9組来ていますが、男子が7名、女子が2名、中学生の傾向としては、不登校の子どもや不登校ぎみの子どもが多く含まれています。県別に見ていくと関東が東京3名、埼玉1名、神奈川2名、関西が大阪2名、京都2名、兵庫2名、九州では福岡が3名、沖縄が1名です。

保護者には、預けっぱなしでは困るということも言っています。とにかくしま留学でどう成長しているかその様子を学校の大きな行事の時には案内するので是非参加してくださいと言っています。ですから、一人の親が年3回以上は五島に来ていることになります。そういう点では離島島民割引が保護者にも適用されるということを説明すると大変喜んでいただいております。

私としては、しま親の開拓が高校の離島留学やしま留学の課題と思っております。そこで、浜窄小学校が今度閉校になりますので、あそこを是非、寄宿舍として活用していただきたいと思っております。

今、しま親をしていただいている方々が、5年、10年後に果たしてできるのか、しま留学、離島留学を継続してやっていくためには、そこまで踏まえた対策をやっていく必要があると思っております。そういった意味では、浜窄小学校のようなところを寄宿舍として、そこに退職教員などを雇用してお世話をしていただければどうかと思っております。浜窄小学校の場合は、風呂さえ整備すれば使えますし、新たに整備するとかかなりの経費がかかりますので、そのあたりを県と話をうまく進まないかなと私個人として思っております。

もう一点は、留学生を預かるにあたっての家庭教育の在り方、留学生への接し方です。特にしま親に対してですが、研修をしていくべきではないかと思っております。自分の子どもは子育ての経験があっても留学生を預かって家庭教育をしていくわけですから、やはり命の大切さ、基本的な生活習慣というところをどうやっていけばいいのかという研修。また、これまで出てきた事例をもとに事例研究もしていく必要があるのではないかと思っております。

それからもう一点は、家族留学ですが、既に家族留学ができるとして見学に来た人もいます。見学に来て、こんなところに住みたいという保護者が2組いました。その方たちには、まだ家族留学制度の内容が固まっていないので、どういった支援ができるか急いで検討しておりますと説明をしております。

全国では不登校の子どもが10万人以上もいると言われております。そういった子ども達をこの五島で再生するようなそういう五島の島にならないかなと、五島の温かさと五島の教育で子ども達を救ってやれないかなと考えております。

不登校の子ども達が、将来、家に引きこもったり、最終的には働かずに生活保護などを受けることになれば、日本の国にとって大きな損失ではないかと思っております。そういう子どもを出さない、救うことも大事なことではないかと思っております。

#### 【野口市長】

久賀で家族留学をする場合に空き家はどのくらいありますか。

【坂本委員】

空き家はあります。最近も1棟開拓をしました。教職員住宅もあります。

【野口市長】

今、事例研修も含めたところで、しま親、あるいはしま親に新たになる人を含めて研修をやったかどうかというありがたい意見をいただきましたので検討していただきたいと思います。

【事務局】

すぐにやりたいと思います。

【野口市長】

五島をそういった不登校から立ち直らせるという一つの教育の場にするということは大賛成でありまして、例えば久賀の中学校を卒業して、その後、五島南高校に繋ぐということも考えていきたいと思います。

【坂本委員】

久賀には、不登校気味の生徒が多いものですから、高校の離島留学制度のことも宣伝しております。

【野口市長】

奈留高校は、英語に力を入れておりますが、平成29年は1年目ということもあり、可能な限り受け入れる方向で対応していただきました。今年からは英語の力をしっかり見させていただくということでありました。

五島南高校の離島留学も含めて杣川委員さんからご意見はございませんか。

【杣川委員】

五島南高校は、一人帰ってしまったのですが、送り出す側の家庭（夫婦）の意思統一がされていなかったというのもあるようです。

奈留の里親が不足しているということですが、確保できなかった場合の対策はありますか。

【事務局】

しま留学の方は、3家庭あるので5人は受け入れられる状況ですが、今後も引き続き開拓をしていかないと苦しくなってくると思います。

久賀は10人確保できております。

【野口市長】

奈留の中学生は、卒業生の半数が島外に出ていくという現状があります。

子どもの将来のことを考えると縛り付けるのもいけなと思いますが、なるべく地元に残していただければと思っております。

### 【佐藤委員】

離島留学については、すばらしい事業だと思いますが、坂本委員が言ったように先々のことを考えると寄宿舍が必要ではないかと考えます。私も親戚の子どもを夏休み少し預かるだけでも、よその子を預かるというのはすごく神経を使いますし、ましてや不登校というような難しい子どもを預かるというのは里親さんにはすごく負担がかかると思いますので、寄宿舍に専門的な心のケアをしてくれる方とか、食事も一番大事なので栄養士の方を置くなど、そういった体制を整えた上で地域の人達との温かいふれあいや五島の自然にふれることで辛い思いをしている子ども達を救えるようになったら本当に素晴らしいことだと思います。

### 【濱村委員】

離島留学は素晴らしい取組と思いますし、寄宿舍というのもいいと思いますが、この子ども達は何らかの理由があって学校に行けなくなったと思いますので、その子達がまた集団生活になることで難しい問題も出てくると思います。先ほど言われたような研修などで受け入れる側も勉強しないといけないと思いますし、将来大人になって五島に帰って来て、住んでもらうような子ども達を育てるようなことも視野に入れて取り組むことが五島の活性化にもつながるし、それを見て地元の子も達も五島の良さを見直して一旦は外に出ても五島に帰って来るようになればと思います。

### 【教育長】

しま留学や離島留学にしても、いずれも受入先が問題になっているというのは分かりますが、忘れてはならないのは、この事業がどういった目的で行われているのかということです。例えば、しま留学であれば豊かな自然のなかで様々な体験をすることによって心身ともに健全な子ども達を育成していくという大きな狙いがあり、あるいは奈留であればイングリッシュアイランド、そして南高校では不登校の受入とそれぞれが特色を活かした取組があります。そのことを中心に考えていない取組はいつか朽ちてしまうだろうと思います。ですから市長からもあったように、奈留では英語を全面に掲げ、奈留高校を卒業するときには最低でも英検2級を取得して卒業するというような大きな目標を設定するなど、そうすることで小学校や中学校における教職員の人事も踏まえながら小中高連携して形が作っていけないのではないかと考えているところです。

それから一番気になったのは、受け入れる時の見極めが非常に難しいということです。実際にしま留学や離島留学にしても、それぞれ受入後にいろんな課題が見えてきて、そして、途中でリタイアという残念な結果がありますので、それを完全に0にすることはできないにしても、やはり受入段階でしっかりと見極めをしていくにはどうしたら良いか、これは受け入れる側の様々な研修も必要なのかなということを改めて感じました。

とにかくまだまだ課題が多いですが、その課題の一つ一つを丁寧に取り除いていく作業をしていかなければならないと考えております。

### 【坂本委員】

先ほど家族留学の話がありましたが、久賀とか奈留は家族で来ていただくと大変助かります。人口減少で人口を増やすことを考える時に、この家族留学は、今までのしま留学と違ってこの福

江島本土でもやれるのではないかと考えております。福江島であれば、仕事や住宅も見つけやすいので、そのあたりも先々考えてみてはどうかと考えております。

**【野口市長】**

この家族留学については、基本的には久賀と奈留の二次離島だけを対象としております。純粋なUターンIターンで来ている人たちも小学校、中学校の子どもさんがいるところがあります。そこはやはり線を引きたいと考えております。それをやってしまうと普通のUターンIターンで来たところにたまたま子供さんがいることで、補助金を出すことになるので、それは違うのかなと思います。あくまでも二次離島の小学校中学校を守る、あるいは二次離島の五島の子ども達の教育環境を小規模なところからできるだけ大きな人間関係のなかで育てていただきたいという意味合いを込めて、この件については別扱いをさせていただきたいと思います。

他ございませんでしょうか。

無いようでしたら、次にプロジェクトGの現状について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

資料に沿って「プロジェクトGの現状について」を説明。

**【野口市長】**

プロジェクトGの現状について説明いただきましたが何かございませんか。

**【佐藤委員】**

私達も中学校や高校で英語を勉強しましたが、長い文章とかを読めても実際はしゃべれないという残念な現状があります。難しいのは読めるのに簡単な会話ができないというのがあるので、そういった外国人の方とコミュニケーションをとれるような英語力というのが大事ではないかと思います。取組としては素晴らしいと思います。

**【濱村委員】**

私の子どもの時代にもあったらと思うような素晴らしい取組だと思いました。

**【野口市長】**

私も中学校から英語は習って来て、そんなに悪い成績でもなかったと思いますが、全然しゃべれないという現状があります。

**【坂本委員】**

A L Tが6名いて、それを指導するA L Tが1名いるということは、昔では考えられないと思います。五島市が英語教育に手厚く力を入れていることに感謝いたします。

それからプロジェクトGの取組、G T E Cについても予算を組んでいただいて、本当に五島市は進んでいるなと感じております。

**【 川委員】**

先ほど市長もおっしゃいましたが、勉強はしているのにいざ外国の方と対応すると固まってしまふということがあります。会話が通じなかったらどうしようというような不安があると思います。私も仕事柄、職場によく外国の方が来られますが、若い子でも固まってしまいます。外国人と接する時の気持ちの問題もあると思いますが、先ほども言われたように普通の日常会話を身に付けることが重要だと思います。

**【野口市長】**

今の子供たちは、ALTの人達と遊んだりして接する機会が多いので、私達ほどではないと思います。

今までプロジェクトGは、全国的には平成32年度からスタートするところを五島市はいち早く平成26年度から取り組んできました、これまでは全国よりも早くということで取り組んできたのですが、平成32年になると全国が追い付いてきますので今度は全国より手厚くしていかないと、一段上の段階になっていかないと思いますのでしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

**【教育長】**

GTECの取組についてですが、2020年から高大の接続が大きく変わります。特に今まで無かったスピーチやプレゼンなど、要するに「読む」「聞く」「話す」「書く」が全て網羅されて試験に入ってきますので民間の検査を導入するという大学が出てきます。4年間は試行ですから、段階的に導入されると思いますが、これに向けての取組が今できているということで、徐々に力をつけてきているのではないかと考えております。

最後に一つだけ、先ほどのしま留学の絡みもあるのですが、少子化人口減少に対応した活力ある学校教育の推進事業という事業を文科省から指定を受けてやっておりますが、この度、文科省から調査官が来られて久賀小学校と北海道の厚真町の小学校が中学校との間で英語を使った遠隔事業を行うという取組も行っております。

**【野口市長】**

プロジェクトGとは関係ありませんが、奈留高校は英語に特化した留学生の受入を行っておりますので、現在、語学研修について助成ができないか教育委員会で検討しているところです。

それでは次に新図書館建設について事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

「新図書館の進捗について」説明

**【野口市長】**

プロポーザルについては興味を示しているところはありますか。

**【事務局】**

10月25日までに参加表明を出していただくことになっておりましたが、2つの業者から参加表明を受けております。今後、このなかから技術提案が上がってくることになります。

**【野口市長】**

平成31年度は実施設計にかかって、それが終わり手続きをして平成32年度の途中から着工ということですね。いよいよ動き出しておりますので今後ともよろしく願いいたします。

新図書館について、何かございませんでしょうか。

**【全員】**

ありません。

(5) その他

**【野口市長】**

次にその他として、空調、しま留学、プロジェクトG、図書館以外のことで何かございましたらご意見いただきたいと思えます。

**【坂本委員】**

学校教育とは関係ないのですが、現在、久賀島のへき地保育所は休園になっております。現在、久賀島には3歳までの子どものいる世帯が4世帯あるのですが、保育所が無いために、福江に住んでいる人もいます。

保育所は、2世帯以上いたら再開しますと言っていたのが3年連続継続していないといけなとか、3歳児以上でないとい保育児にならないなどいろいろな条件があるようです。若い人が頑張っている地域に貢献している現状もありますので、保育所がこのような状況になっていることを理解していただければと思えます。

**【野口市長】**

久賀で子どもが増えるというのは非常にうれしい話ではありますが、もともと久賀には保育所があったのですが、子どもの数が少なくなって、一人になった時点で閉鎖をいたしました。もともとあった保育所が3歳児以上を対象にしていたということもあり、先ほどのような話になったと思うのですが、今は保育所も保育園を設けて行う方法や預かりで行う方法などいろいろと形態があるので、そういったなかからどういったものができるのか検討してまいります。

それでは、他はよろしいでしょうか。

(6) 次回開催について

【野口市長】

それでは次回開催についてですが、ある程度時期を決めたいと思いますが事務局から何かありますか。

【事務局】

総合教育会議の開催については、定例的な会議を年に2回程度予定しておりますので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議で終了したいと考えております。しかし、今後、市長や教育委員から協議・意見交換したい内容がございましたら、事務局までご連絡いただければ、第3回目の会議を調整したいと思います。また、緊急的に開催する必要が生じた場合については、事務局より皆様へご連絡したいと考えております。

【野口市長】

総合教育会議の開催は、年に2回程度を目安としているようですので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議をもって終了したいと思います。

次回開催は来年の7月頃になります。

ただし、今後、皆様から協議、意見交換をしたい内容がございましたら事務局までご連絡いただければ対応したいと思います。

(7) 閉会

【野口市長】

それでは以上をもちまして、今年度、第2回目の五島市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。